

アカデミック・ライティング指導の
計画と実践

アカデミック・ライティング指導の計画と実践 概要

1 アカデミック・ライティング指導モデルの整理

アカデミック・ライティングについて、国語科（書くこと領域）を基にした指導モデルを作成した。指導モデルは、通常の「題材の設定」「情報の収集、内容の検討」「構成の検討」「考えの形成、記述」「推敲」「共有」の段階に「仮説の設定」を加えたものである。この指導モデルに沿って総合的な学習の時間を進めることで、児童は興味をもった題材について「きっとこうだろう」と仮説を立てて調べ、その過程や結果を伝えようと試行錯誤する。そこに教師が効果的に手立てを打つことで、児童の「読解力」や「言語能力」は高まり、発揮されると考える。

2 「鯨っ子学習」について

本校では、総合的な学習の年間 70 時間を①学級担任の教科の特色を生かした探求課題、②横断的・総合的な探求課題（学年テーマ）、③児童の興味・関心に基づく探求課題の 3 種類に分けて取り組んでいる。この中で、③児童の興味・関心に基づく探求課題を追究する時間を、「鯨っ子学習」と呼んでいる。この「鯨っ子学習」を各教科で育成してきた「読解力」「言語能力」を発揮する場とし、実践と検証を行った。

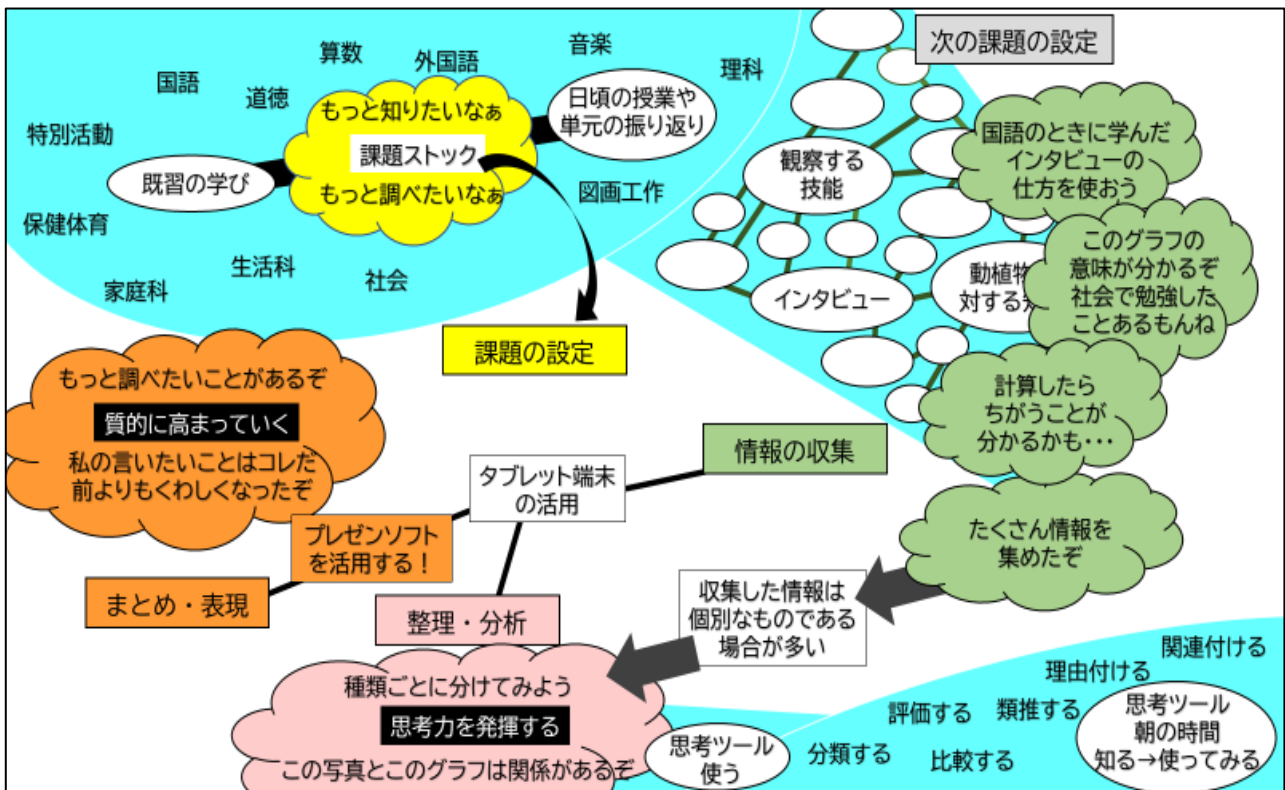


図1 「鯨っ子学習」のイメージ

3 次頁からの見出し

- 1 アカデミック・ライティング指導モデルの整理
- 2 「鯨っ子学習」のすゝめ
- 3 2022 総合的な学習の時間（年間計画）
- 4 「鯨っ子学習」学年別課題ストック例
- 5 「鯨っ子学習」における効果的な手立てと児童の姿
- 6 「鯨っ子学習」実践記録